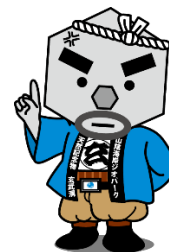


豊岡市教育研修センターだより



豊岡市教育委員会 R6(2024).12.13

No.15

豊岡市のホームページにもアップしています。

豊岡市 HP→上段「暮らし」→右下「教育・学校」→「教育研修センター」へ

豊岡市小中一貫教育 各小中ブロックが考える次期への取組

豊岡こうのとりのプラン(第2期:2020~2024)において、次のテーマについて、協議しました。以下、一部抜粋したものです。

豊岡市小中一貫教育
推進協議会より

【テーマ】つながりのあるカリキュラム

成 果	課 題	実施可能な効果的な取組
【ふるさと教育】 ・小学校で具体的なふるさと教育を行っており、中学校では、その知識を使って探究型の学習に取り組んでいる。 ・教職員だけでなく、地域の方も入っていただきながら、9年間の総合的な学習のカリキュラムを考えることができた。 【英語教育】 ・ALT(小中スムーズ移行) ・小・中学校相互の英語学習授業参観ができ、相互理解につながった。 【コミュニケーション教育】 ・コミュニケーション教育が定着してきた。 【学習指導と生活指導】 ・継続して取り組んでいる「アプローチ&スタートカリキュラム」のお陰で、職員・児童生徒ともに、小中のつながりを意識できている部分大きい。 【全体】 ・目指す児童生徒像が中学校区で共有でき、それに向けた小中一貫の取組が進行中。	【ふるさと教育】 ・少子高齢化による地域行事の在り方 【英語教育】 ・英語教育において、小学校の内容が高度になり、中学校に入ったとき苦手意識を持っている子もいる。 ・小学校と中学校の情報交換が必要。特にそれぞれの学習内容を知らない。 ・ALTとの連携時間がない(小学校) ・学習の進め方に違いがあり、児童生徒に戸惑いがある。(小学校はコミュニケーション重視、中学校は文法重視) 【コミュニケーション教育】 ・「コミュニケーション教育」についてふだんから指導していることの中に、コミュニケーションの視点を意識していないのでは。 【学習指導と生活指導】 ・小中の授業づくりについての意識に差があると思う。→もっとお互いが学ぶ場があれば…。 ・家庭生活、学習に関する指導の違い 【全体】 ・小中、学校間のコミュニケーション授業やふるさと学習の情報共有を行い、つながりをより意識したものにする。	【ふるさと教育】 ・ふるさと教育については小中でつながりやすい。(コウノトリ、地場産業、ジオパーク等)最終的には中3が小学生に向かってプレゼンをする。 ・ふるさと学習で、地域の方にゲストティーチャーとして参加していただく。 【英語教育】 ・小中学校の英語授業の交流(中学校職員が小学校の英語授業を参観等)情報交換と共有化が必要(小6から中1の英語の授業ギャップ等) ・推進委員会における部会で英語部会(教科部会)を設定し、共通理解の下ギャップの解消を図る。 【コミュニケーション教育】 ・コミュニケーション教育の授業をオープンスクールで実施する。 ・コミュニケーション教育を小中の教員が参観できるよう、お互いに連絡を取り合う。 【学習指導と生活指導】 ・中学校の教員が小学校の授業を参観する→小中お互いに参観する。 ・1つの教材について、授業後、雑談し、意見交流する。(小6が中学校に訪問する際等に) ・園小中を交えた読書時間の確保

豊岡市では、2007年度から小中連携教育、2017年度から小中一貫教育を展開してきました。

児童生徒の9年間を学校・家庭・地域で支え、豊岡で育む教育がこれからさらに重要になってきます。小学校でのカリキュラムと中学校でのカリキュラムを円滑につなげるためにも、同じ目標に向けて学校・家庭・地域が情報共有、実践していくことがさらに求められます。成果と課題からみられる次への対策についても、机上の空論ではなく、確実に実践していくことがポイントです。